

第5回 医療のまちづくり検討委員会

【問合せ】保健課 ☎773-6811

8月19日(水)、第5回医療のまちづくり検討委員会が開催されました。ゲストスピーカーから遠隔医療、介護医療院に関する取り組みや課題などの事例を紹介いただきました。また、市立病院の常勤医師から聞き取った意見などの報告や、城内診療所の経営状況などの説明が行われました。その後、提言に向けて検討していく土台となる骨子案について検討が行われました。(以下、一部抜粋・要約)

遠隔医療の取り組み事例

NTT東日本新潟支店から実証実験の紹介

魚沼市で、テレビ会議システムを利用して、医師と患者をリモートで結んで診察する実証実験を行ったところ、患者からは、医師の顔を見ることができ、とてもありがたいなどの声がありました。

株式会社アイセックから現状などの紹介

新型コロナウイルス感染症の急速な拡大により医療アクセスの困難さや不安を払拭するねらいもあり、時限的な措置として、電話やオンラインによる診療などの対応が可能になりつつあります。

介護療養病床から介護医療院への転換事例

医療法人崇徳会田宮病院介護院〔長岡市深沢町〕

療養病床の入院患者がいる中で転換工事を行いました。患者本人や家族への説明、騒音や異臭への対応などに配慮する必要性がありました。

※介護医療院とは、長期的に医療と介護の必要性がある人を対象に、日常的な医学管理のほか、看取りや終末期医療などの医療機能と入所期限のない生活施設の機能を合わせ持つ介護保険施設です

委員からの意見など

- 遠隔診療では、通常に比べて診療報酬が少ないなどの問題がありましたが、さまざまな改定も加えられ、事業を進めていく上でこれからはプラスの方向に向いていくと思います。
- 遠隔診療を行う中で、患者への必要なサポート方法など、次の具体的な事業展開を考えて進める必要があると思います。
- 特別養護老人ホームなどでは吸引などの医学的処置の対応が難しいため、介護医療院にはそのような対応が必要な人を受け入れる役割があると思います。



南魚沼市民病院医師とゆきぐに大和病院医師から聞き取った意見などの報告

医師：委員の中に市立病院の関係者が入っていないのはなぜか。

委員会：全国的な客観的なものの見方でまずは意見を聞きたい、ということで職員をなるべく入れずに委員を選出した。具体的な実務の検討では職員が入っていくと良いと思われる。

- 委員会の中の、統合・再編という言葉に不安を感じる職員もいる。疑心暗鬼にならないような公開をお願いしたい。
- これまで委員会では医療の話が多かったが、ようやく交通政策などのまちづくりの話があって、委員会の視点が広がってきたと感じる。

- 南魚沼市民病院は140床という条件は与えられたもので、経営的には非常に難しい病床数である。
- 地方の医療は医師の思いが強くないとできない。どういう気持ちで医療をやっているのか感じてもらいたい。
- 市立病院を将来的にどうしていくのか、今後のコストや収益を徹底的にシミュレーションして提示することが必要である。
- ゆきぐに大和病院が元々持っていた精神や理念を絶やすことなくやって欲しい。
- ゆきぐに大和病院では地域包括ケア病床を拡大していきたいが、一般病床との割合やマンパワーなどの課題がある。